

平成30年3月発行

# ジモト で 岩手県版 はたらく



 復興庁

Reconstruction Agency

新たなステージ 復興・創生へ

## 地元就職のススメ

地元就職するか地元以外で就職するか。

それは就職を考える時に頭を悩ませることの一つ。

実は地元には、あまりよく知られていないものの、

地元ならではの魅力的な企業がまだまだたくさんある。

そんな地元企業に就職し、実際に働いている先輩たちの

日々の仕事の様子や地元で働く魅力を紹介。

「地元就職」について考えてほしい。



地元就職のススメ .....	2
「釜石ブランド」を世界へ発信 復興を支えるやりがいのある仕事 .....	4
尾形 大成さん 釜石ヒカリフーズ株式会社 製造担当 2015年入社	
「仕事しやすくなったよ」と 言ってもらえるのが一番うれしい .....	8
佐藤 大介さん 株式会社大武・ルート工業 製造技術担当 2016年入社	
「ホテルの顔」としておもてなし 復興を支える一員になりたい .....	12
磯谷 彩香さん 大船渡インターホテル椿 フロント担当 2015年入社	
Interview	
地元の良さを知ろう .....	16
石井 重成さん 釜石市 オープンシティ推進室長	
都会と地方の違い .....	20
吉田 浩 東北大学大学院 経済学研究科 教授	
被災3県の高校生・大学生の就職に関するアンケート 数字で見る3県の特徴 .....	21
地元企業に目を向けよう .....	23





鮮やかな手つきでイカをさばく。



# 「釜石ブランド」を世界へ発信 復興を支えるやりがいのある仕事

## 衛生管理に目を配り

### 三陸沖で獲れた水産物を加工

その日に水揚げされた新鮮な魚介類が、次々と手際良くさばられていく。そんな作業員の輪の中に、尾形大成さんの姿があった。

現在入社3年目。仕事を行う上で最も気を付けているのは、安全と衛

生管理だ。「生鮮品を扱っているの

で、衛生管理はとても重要です」。

そのため同社の加工場では毎日全員で1時間以上かけて徹底的に清掃を行うという。

尾形さんの主な仕事は、魚介類の処理のほかに、市内の大型冷蔵庫に保存されている原料を引き取り、フォークリフトを使い加工場に搬入

## おがたたいせい 尾形 大成さん

釜石ヒカリフーズ株式会社  
製造担当 2015年入社  
釜石市出身 21歳

することなど。「水揚げや、取引先からのオーダーによってもその日扱う魚介類が違うので、仕事に飽きることはありません」。

昨年、4月には仕事ぶりが認められ、主任となり、生産現場の責任者となった。

「社員の平均年齢は34歳、チームワークがあり、みんなバワフルです」と尾形さんは話した。

## 釜石の水産加工業に光を 震災後生まれた新しい会社

釜石ヒカリフーズ株式会社は、2011年8月に設立したばかりの会社だ。大手居酒屋チェーンや宅配サービスなど取引先は全国各地に広がる。

「商品の種類も年々増えています。地元でとれた魚を商品化し、全国へ発信している私たちの会社は、すごいと思います」と尾形さんは話す。そして、「取引先の居酒屋に行った時、これがうちの商品だと思ったらうれしくて、にんまりしてしまいました」と続けた。

同社では冷凍によって魚の味や食

感が損なわれないようにするため、冷凍しても魚の細胞膜を破壊しない凍結機を導入。また、産官学連携で水産物を凍らせることなく長期に鮮度を保持できる技術を開発するなど、新たなチャレンジを続けている。「新しい技術によって商品品をブランド化して、海外への進出も視野に入れ、商談を行っているんですよ」と尾形さんは胸を張る。

## 復興に向かうふるさとに貢献するために入社を決意

尾形さんの実家は、会社のすぐそ



上司と作業について打合せをする。

ば。入社の日々からは「水産加工の仕事をする中で、復興に向かつて頑張る地元の人たちの役に立てるのではないか」と思ったから」と話す。震災によって変わり果てたふるさと。多くの若者が釜石を離れる中、尾形さんは、釜石で就職することを選んだ。

「加工場というところ、魚臭いとか汚いというイメージを持つ人も多いと思いますが、私たちの会社は全く違います。高品質な商品をお客様に届けるため常に清潔に保たれているんです。また、働く私たちにとっても快適な職場になっています。」

このほか加工場では、音楽をスピーカーで流しているという。ポップやロック、演歌など、希望に合わせてリクエストも可能だ。「音楽があると、テンポ良く仕事ができます。作業効率も上がります」。同社が設立当初から目指していた「働きやすい職場づくり」は、確実に効果を上げていっているようだ。

目下の目標は、「一歩一歩着実に成長すること。そして『尾形になら任せて安心だ』と言われるようにになりたいです」と笑顔を見せた。



## 尾形さんのある日の一日

7:45

**出社**  
朝礼の前に、当日の作業打ち合わせを行う。

8:15

**朝礼**  
**作業開始**  
水揚げされたばかりのサケをさばらせていく。

10:30

**原料の調達**  
トラックで釜石市街地にある冷凍施設に向かい、冷凍された水産物を引き取る。

12:00

**昼食**  
**業務再開**  
会社に戻った後、タコの処理を行う。

12:45

**翌日の作業準備**  
翌日の作業で使う水産物を確認する。

17:15

**終業**  
清掃と翌日の作業のための打合せをしてから帰宅。

## 上司に聞く

### なごやかな雰囲気職場、作業効率の向上が課題です

尾形くんは、全体を見回しながら仕事をを行い、リーダーシップを発揮してテキパキこなして行くので、周囲からも信頼されています。昨年、生産管理の現場責任者となったことで、さらに熱意を持って仕事に取り組みようになりました。

現場で最も大切なのは、「コミュニケーションです。尾形くんは「次は、この仕事をやりましょう」となど積極的に声掛けしてくれます。こうしたことが現場に一体感をもたらすとともに、安全な作業へとつながります。

製造課の目標は、いかにして「作業効率を上げるか」。作業効率の向上が利益に大きく関わり、従業員の給与につながるため、今後尾形くんにも経営の視点を身に付けたり、商品開発についてもどんどんアイデアを出してほしいと思います。



品質管理課課長  
白土 満 さん

## 岩手県で はたらく魅力



原料を引き取るため、市場や冷凍施設までトラックを走らせる。

### たくさんの支援への恩返しは 釜石のまちを元気にすること

釜石市で生まれ育った尾形さん。北上市内にある高校に進学が決まったことから、中学を卒業後に一度釜石を離れたことがある。「高校生の時に地元を離れたことで、釜石への思いが強くなりました」と語る。

物心ついた頃から海が遊び場だった。海からさまざまなものを学び、成長した。そんな尾形さんに、地元の魅力について聞くと、「やっぱり、新鮮な魚介類ですね。それと、地元の人々の人情、みんな仲良く助け合って生きていく」と返ってきた。

お父さんも魚市場で働いていたこともあって、「高校卒業後は、自分も水産業の仕事をしたい」という漠然とした気持ちはあった。そうした中、「叔父が務めていた同社で、一緒に仕事をしてみたい」と思い入社を決めた。

入社してみると、同社に対してたくさんの支援の手が差し伸べられていることに尾形さんは驚いた。資金援助のほか、ホームページやパンフレットなどを作成するための支援も

あったという。

「私たちの会社も釜石市も、世界から支援をいただいていたんです。こんなに応援してもらっているのだから、釜石を震災前よりもっと良いまちにしなければいけないと思っっています」。

### 会社設立時の社長の思いを 胸に前に進みたい

穏やかな唐丹湾、そこには東日本大震災で荒れ狂った海の面影はない。湾内の漁港から一本道路を隔てた場所に同社の社屋がある。

津波によって釜石の水産業や水産加工業は壊滅状態となった。漁船を流され呆然自失の漁業者や、勤め先を失くし意気消沈した人々の姿、そして多くの会社が撤退する状況を目の当たりにしたという佐藤正一社長。

「このまちで水産加工場がなくなれば、生活の糧を失ってしまう。地元の漁業者とともに水産業を復興させて、人々の誇りを取り戻すための光になろう」と思い立ち、新規の水産加工会社を設立したという。

尾形さんも「社長が釜石の水産業

### 尾形さんの オフショット

#### 家族がいるから頑張れる 「新米パパ」奮闘中！

2017年、尾形さんは友人の紹介で出会った同じ年の女性とめでたくゴールイン。

佐藤社長はじめ従業員のみなさんも喜びに包まれたという。さらに、10月には、長男が誕生、21歳にしてパパとママになった。

終業時間が来ると飛ぶように自宅に帰るのが尾形さん。「毎日お風呂に入れるのが仕事です」と育児も積極的に取り組んでいるようだ。

「これからは3人でドライブしたり、私の趣味でもある釣りに行ったりたいですね。今から楽しみです」と話した。





水産業への熱い思いを語る佐藤正一社長。

## 後輩へのアドバイス

私たちの会社は、社長が釜石の水産業を次の世代に伝えていくために立ち上げた会社です。

たくさんの方から支援をいただいたので、恩返しのためにも良い製品を作って、「釜石ブランド」として発信できるように頑張っています。こうした会社が釜石にあることを知ってもらいたいと思いますね。

ふるさとで働く良さは、家族のそばで暮らす安心感ではないでしょうか。若者が一人でも多く地元に着定することで、まちは元気になります。それこそが地元への何よりの貢献だと思います。みなさんも、是非、地元で働いて活躍してください！



周囲からの祝福を受ける中、「これからはもっとしっかりと仕事をしなければ」と、『責任』の二文字が頭に浮かびました」と話す。10月には、長男が誕生。少子高齢が進む唐丹町だけに、地区全体のうれしいニュースとなった。

「家族が多いとにぎやかで、子どもを見てくれる人がいっぱいいるので助かります。子育ての環境としても最高です。息子に釣りを教えるのが今から楽しみで、目を輝かせながら話した。」



の灯を絶やしてはならないと、会社を立ち上げた気持ちを忘れずに、復興途上にある釜石に仕事を通して貢献できるように頑張りたい」と今後の目標を語る。

### 実家でにぎやかな生活

### 長男誕生で一児のパパに！

昨年、尾形さんにとって人生の節目ともなるハッピーな出来事があった。結婚したことで、同時期に会社で主任に昇格したことで。

### 企業情報

## 釜石ヒカリフーズ株式会社

所在地 岩手県釜石市唐丹町小白浜568  
TEL: 0193-55-3663  
<https://www.hikarifoods.jp/>

代表取締役 佐藤正一  
資本金 1,500万円  
設立 2011年8月  
従業員数 27人 (2018年1月現在)  
事業内容 岩手県釜石産サバ、サケ、サンマ、タコ、海藻類等を主原料とした水産加工品の製造・販売





パソコンでCAMを使い、加工プログラムを作成する。

「仕事しやすくなったよ」と  
言ってもらえるのが一番うれしい



さとう だいすけ  
**佐藤 大介**さん

株式会社大武・ルート工業  
製造技術担当 2016年入社  
一関市出身 35歳

「パイプ役」として  
設計者と加工者をつなぐ

一般にランニングマシン、ウォーキングマシンと呼ばれる健康器具「トレッドミル」と、工場などで活躍する「自動ネジ供給機」の製造を二本柱とする株式会社大武・ルート工業。中途採用で入社2年目の佐藤

大介さんの主な仕事は、工作機械の加工プログラムを作成することだ。パソコン上で「CAM」というソフトを使い、設計者が作成した図面に、「どの工具をどう動かして、どんな加工をするのか」といった情報を設定していく。現場の作業の中枢となるプログラムで、いわば、設計者と加工者をつなぐ「パイプ役」だ。

佐藤さんは、社内でのポジションに就いた第一号。それまで設計者と加工者が直接やり取りをしていたが、佐藤さんが間に入ることで、双方の仕事のしやすさや作業効率が高くとアップしたという。

「加工現場の仕事は経験上よく分かるし、図面を勉強して設計者の伝えたいことも理解できるようにになった。互いが働きやすいように、翻訳者のような役目を担えれば」と佐藤さんは話す。

従来プログラムも見直し

「ミスの起きにくい」工程を作成

加工プログラム担当者の第一号といふことは、佐藤さんに業務上の先輩はいない。お手本がなく、自分で道を作るしかなかった。

最初に取り組んだのは、現在動いている加工工程の全プログラムの見直しだ。ミスが起きやすいポイントを洗い出し、その原因や解決方法を探る。もっと効率良く、加工時間を短縮するにはどうすればいいか、知恵を絞る。コストに見合う成果が得られると判断すれば、新しい工具の



導入を提案もする。何よりも、現場に頻繁に足を運び職人の声を聞くことは欠かさない。加工者が作業しやすいプログラムであることが肝心なのだ。

職人のほとんどは年上で、熟練ぞろい。「みなさんすごく腕がいいから反応も早いし、やりがいがある」と佐藤さん。もちろん、それだけに頑固で一筋縄ではいかない相手でもあるのだが、そこは持ち前の人懐っこさと明るい性格でうまくコミュニケーションを図っている様子が伝わってくる。



図面を見ながら現場の職人と動作を確認。

## コミュニケーションを生かして 苦手な仕事も克服したい

「本当はパソコンに向かうよりずっと工場で機械に触っていたいです」。ポロリと本音が出た。工業高校出身だが、初めから機械いじりが好きだったわけではないという。高校で学ぶうちに、ものづくりの面白さに目覚め、その道を志した。

現在も、プログラム制御のチェックや新製品の作業確認で、実際に作業を行うこともあるという。そんな話になると一気に目を輝かせ、「機械加工はできますが、これから板金加工も習得してオールマイティな技術者になりたい」と話す。「自分で使えるほうが、より良いプログラムが作れるので」。

苦手な仕事はあるか、聞いてみた。途端にシユンとなり、隣に座る浦川工場長を伺いながら「外注の交渉は、かなり苦手です……」。工場長が話を引き継ぎ、「人が良くてね。納期や単価、品質の交渉で押せないんです。でもコミュニケーション力があるから、心配していません」とフォローする。



## 佐藤さんの ある日の一日

8:00

**朝礼**  
進捗状況やその日の予定、連絡事項を確認。安全上の注意を共有。

8:10

**業務開始**  
加工現場へ出向き、加工者と打ち合わせ、相談などを行う。

10:00

**休憩**  
5分間休憩。お茶を飲んで一息つく。

12:00

**昼食**  
愛妻弁当を食べる。

12:45

**業務再開**  
プログラムの作成や修正、外注先との打ち合わせをする。

15:00

**休憩**  
10分間休憩。飲み物を買って飲んだり、スマホをチェックしたりする。

17:00

**終業**  
日報を記入し、翌日の仕事の準備をして帰宅。

## 上司に聞く

**協調性と柔軟性が魅力  
将来は会社を背負って  
立つ人材に**

佐藤君の一番の魅力は人間性。協調性がある相手の話をきちんと聞くので、入社してすぐに周囲の信頼を得たと思います。

技術面では、前職の経験を生かして新しい仕事にチャレンジしてくれています。以前は設計者と加工者のすり合わせがうまくいかないこともありましたが、彼が来てからは意思疎通がしっかりできて作業時間も大幅に短縮できました。現場も設計者も、佐藤君には言いたいことを言ってくれてもらえるから、ストレスが減ったようです。難しい注文にも柔軟に対応できるし、大変頼りにしています。真面目で勉強熱心なので、ますます成長してくれるでしょう。

今後はさらに経験を積み、リーダーシップを発揮して行ってほしい。将来、大武・ルート工業を背負って立つ人材として大いに期待しています。



工場長  
浦川 幸次 さん

## 岩手県で はたらく魅力



職人から機械の説明を受け、勉強するのも大事な仕事。

### 親や友達がいる安心感 自然豊かな子育て環境も魅力

一関市出身の佐藤さんは、大学進学のため上京、そのまま東京で就職した。大好きなものづくりに携わり、充実の社会人生活を送っていたが、実家の父の健康状態が悪化したため帰郷を決意。2016年、勤め先を退職し、家族を連れてUターンした。

「やっぱり近くで親の様子がか分かる安心感は大きいです」と話す佐藤さん。「友達と再会できたのもうれしい。幼なじみは、何年会っていないくてもすぐ昔の関係に戻れますね」。同世代は働き盛りで忙しく、頻繁には会えない。でも、互いに分かり合える友達がすぐそばにいること、心強さをあらためて感じるという。

もちろん戻ってきた当初は、都会に比べて街が寂しいと思ったそう。「でも暮らしてみると、案外ちょうどいい。特に子育てには、こちらのほうがいいですね」と話す。広い空と連なる山々の風景。公園を探さなくても、すぐそばの自然でいくらでも遊べる環境。そういうえば昔、ザリガニやカブトムシを捕ったなあ、今

度の夏は子どもを連れて行こう……そんなことを考えるとワクワクするそう。「それに何より、一関は米と水がうまい！ これ最高ですね」。

### 巡り合えた地元の「すごい企業」 開発から製造まで一手に担う実力

再就職活動は、ハローワークを活用。折しも、同社が雇用力を入れた時期と重なるという幸運も味方し、スムーズに決まった。

入社すると、中小規模でありながら、開発から設計、製造、完成まですべてを行い、自社ブランドで販売していることに驚いたそう。

「こんな会社は県内にあまりないんじゃないでしょうか。すごい面白い。ここで力を発揮したいと思いました」と語るのは、製造業界をよく知るゆえの反応だ。

技術力と創造力を融合し、ほかにない製品を生み出してきた同社。例えば、トレッドミルでは、天然木製の走行板や、3.5センチという世界一の低床設計を実現。身障者や高齢者にも使いやすいため、トレーニング用だけでなくリハビリや学術研

### 佐藤さんの オフショット

#### 鉄道好きの息子と 電車見物や「ラレール」遊び

「休みの日は子どもと遊んではかり」と頬を緩める佐藤さんは、3歳の男の子と、昨年9月に生まれたばかりの女の子のババ。

長男は電車が大好きで、踏切や線路脇がお気に入りスポットとか。特に好きなのは、長く連結した貨物「週末の朝10時ごろ、一関駅を貨物がよく通るんですよ」と、通過時刻はリサーチ済みの子煩悩ババだ。

家での遊びはもっぱら「ラレール」。部屋いっぱい線路をつなぎ、好きな車両を走らせれば、時間を忘れて夢中になるそう。





完成したトレッドミルを細部までしっかりチェック。

「一関市の課題の一つは、若者が少ないこと」と佐藤さん。「地元を離れる人が多いけど、本当は残りたい若者もいると思うんです」。

## 若者が働きたい街へ 企業も魅力発信を

究分野にも需要が多い。自動ネジ供給機では、着脱可能なレールや、ネジを水平移動させる技術を独自に開発。今では世界30カ国へ年間3万台近くを輸出する。実績や将来性が評価され、2017年12月に経済産業省から「地域未来牽引企業」にも選定された。

## 後輩へのアドバイス

好きなことや趣味を仕事にできれば一番いいですよ。でも、就職活動は思い通りにいかないこともあるもの。あまり自分の価値観だけに固執すると、身動きが取れなくなるかもしれません。

行き詰まったら、一人で抱えて考え込まずに、学校の先生など信頼できる人に相談してみる。客観的な自分の評価や、向いている職業・職種に気がついて、思いがけない方向に道が開けることがあります。友達との何気ない会話からも、ヒントがもらえますよ。

小さなことに一喜一憂せず、上手に気分転換することも大事。自分に合った仕事を見つけてください。



地方には働く場所がない、就きたい仕事がない、と思いきや、気が付いていないだけかもしれない。佐藤さんも、地元の工業高校出身でありながら同社の存在を知らなかったという。「企業は自社をもっと積極的にPRするべきなのかも。若者も、地元の企業にもっと関心を持ってくれるといいですね」。

東京で暮らしてみても分かった、地元の良さ。縁があつて出合った、

た魅力ある企業。地元で働き、仕事で会社に貢献することで、一関や岩手の活性化に役立ちたい。家族とともに故郷で暮らす決意をした佐藤さんにとって、地元の発展は、どうしてもかなえない願いだ。



### 企業情報

## 株式会社大武・ルート工業

所在地 岩手県一関市萩荘金ヶ崎27  
TEL: 0191-24-3144  
<http://www.ohtake-root.co.jp/>

代表取締役 太田 義武  
資本金 4,000万円  
設立 1968年10月  
従業員数 45人 (2018年1月現在)  
事業内容 医療機器の製造、スポーツ機器の製造販売、  
小型産業機器等の製造販売





電話対応は明るく柔らかな声のトーンを心掛ける



# 「ホテルの顔」としておもてなし 復興を支える一員になりたい

いそが いあや か  
**磯谷 彩香さん**

大船渡インターホテル椿  
フロント担当 2015年入社  
大船渡市出身 21歳

## 遠征先で出会った ホテルスタッフに憧れて

「いついっしょにませ」。笑顔でお客様を迎えるフロント係はホテルの「顔」。磯谷彩香さんは、この職業に就いて3年目だ。現在、日中のフロント業務をほぼ一人で任され、お客様とのやり取りも板についてきた。

清掃や宿泊者名簿のチェック、事務作業、電話や業者への対応など、チェックイン時刻までに済ませる裏方の仕事も、段取り良くテキパキとこなす。ホテルスタッフの仕事に憧れを抱いたのは、吹奏楽部だった高校時代。コンクールなどで遠征の際に泊まるホテルのスタッフが、まがしく輝いて見えたそう。「いつも笑顔で動き

に無駄がなく、本当に素敵。高校生の私たちには、親しみやすく接して緊張を解いてくれました。あんなふうになりたい、卒業したらホテルで働く、という思いに迷いはなかった。

## 「向いていないのかも」と 落ち込んだ入社当初

心を奮い立たせ先輩の姿に学ぶ

夢で胸を膨らませて大船渡インターホテル椿に入社したものの、「最初はできないことばかりで、途方に暮れました」と振り返る。とりわけ苦勞したのは、接客だ。心を込めておもてなししたくても、お客様が何を求めているのか、どう声をかければいいのか分からない。毎日のように「表情が固い」「声のトーンが低い」と注意され、直そうと思えば思うほど力チコチになってしまふ……。「向いてないのかな」と思い詰めたこともありました。

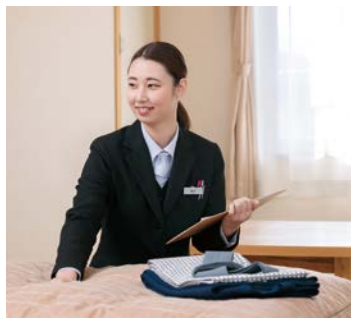
くじけそうになりながらも踏ん張ったのは、生来の負けず嫌いのおかげだ。「負けたくない、絶対にフロントに立つんだ、と思ったら頑張れました」。注意されては落ち込ん

でいた気持ちも、「言ってももらえ  
うちが華。伸びる可能性があるとい  
うこと」と前向きに受け止めた。

すると自然に、先輩たちから学ぶ  
姿勢も生まれたそう。特にフロント  
業務を一から教わった先輩は、従業  
員からお客様からも信頼の厚い憧  
れの存在。「効率のいい仕事のこな  
し方や、お客様へのさりげない気配  
り、簡潔かつ丁寧に伝える言い回し  
など、たくさんのごことを吸収させ  
ていただきました」。

## 名前を覚えてもらう喜び実感 お客様との会話が励み

3年目に入り、フロントのメイン



客室の清掃やベッドメイキングのチェックも、大切な仕事。

スタッフに抜擢された。最前線で接  
客する立場になってうれしかったの  
は「常連のお客様に名前を覚えてい  
ただいたこと」。復興事業に携わる  
工事関係者が、定期的にご利用した  
り長期間連泊したりすることも多く、  
顔見知りになったお客様から「いっ  
もありがとう」「久しぶりだね」な  
どと声を掛けられることが、何より  
励みになるそう。

年配客にはゆっくり大きな声で説  
明するなど、自分なりの工夫もでき  
るようになってきたが、「まだまだ  
一人前とはいえません」と気を引き  
締める磯谷さん。「もっと視野を広  
くし、気配り、目配りが行き届くよ  
うにしたい」と話す。経験を積みほ  
どに、自分の言葉や振る舞いの一つ  
一つがホテルの印象に直結すること  
を痛感し、自覚が出てきたようだ。  
実は人見知りの性格で、初めての  
お客様にはとても緊張するという。  
「でも気に入ってからリピーターにな  
ってもらえるよう、誠心誠意おもてな  
しします」。きっぱりと話す表情に  
は、ホテルの看板を背負う責任感が  
にじんでいた。

## 磯谷さんの ある日の一日

### ミーティング

10:00  
当日の伝達事項などを確認。  
マネージャーと勤務交代にな  
るため、質問や確認はここで  
行う。

### 清掃

10:30  
フロント周辺、玄関、廊下、  
喫煙所などを清掃する。

### 客室の確認

11:00  
この日にお客様が利用する部  
屋をチェックする。

### 昼食

12:00  
母親の手作り弁当を食べる。

### 業務再開

13:00  
翌日のチェックイン名簿の内  
容を事務室のポードに記入。  
事務作業、電話対応も行う。

### チェックイン対応

15:00  
チェックイン開始時刻が過ぎ、  
宿泊のため訪れたお客様の対  
応をする。

19:00

### 終業

フロント業務をマネージャー  
に引き継いでから退勤する。

## 上司に聞く

### 努力重ね成長。フロント 任せられる頼もしい存在に

ビジネスホテルは観光ホテルと比  
べてお客様と接する時間が短いな  
め、第一印象が非常に重要で  
入社当初の磯谷さんには、社会人  
としてのイロハから指導するという  
感じで、叱咤激励の毎日でした。厳  
しいことも言いましたし、大変だっ  
たと思いますが、へこたれずによく  
頑張ってくれました。言われたこと  
をきちんと理解し、なんとか行動に  
反映させようとする素直さが磯谷さ  
んの長所。努力家なので、必ずでき  
るようになるかと信じていました。

今では、ホテルの「顔」としてフ  
ロントを任せられる頼もしい存在で  
す。今後は、お客様のニーズを先取  
りして行動したり、ほかのスタッ  
フをリードしてホテル全体に目配りし  
たりといった、ワンランク上の仕事  
を目指してほしい。根性も向上心も  
文句なしなので、きつとやっつけて  
くと思います。



マネージャー  
佐々木 陽代さん

## 岩手県で はたらく魅力

### 復興のために働く人の 役に立ちたい

一旦は県外での就職も考えたという磯谷さん。大船渡で働くことを選んだ、一番大きな理由は「やっぱり地元が好きだから」。都会に憧れる気持ちがあったくないわけではない。「でも、都会は非日常。住むのは地元が一番」と話す。

東日本大震災が起きたのは、中学2年のときだ。津波によって甚大な被害を受け、故郷の姿は一変した。商店街も道路も、思い出が詰まった場所も流され、地元を離れた友人も多い。やりきれない思いの中、磯谷さんは復興の槌音とともに成長し、思春期を過ごしてきた。社会の一人として仕事に就く年齢になって、も街はいまだ復興途上だ。

「大船渡のために力を尽くしてくる人たちの役に立ちたくて」、復興事業に携わる工事関係者も多く宿泊する同ホテルへの就職を決めたそう。「遠くから来て働いてくれる人たちに、体を休めてくつろいでもらいたい」。お客様に心から喜んでくれたとき、自分も復興に貢献でき

る気がするという。

### 家族や友人の支えがあればこそ 明日も頑張れる

実際に働いて感じたのは、家族や友人が近くにいることのありがたさだ。昔ながらの近所付き合いが残る地域の、温かな関係性も、心をほぐしてくれる。「疲れたとき、つらいことがあったとき、周囲にどれだけ励まされたか分かりません」と、穏やかな笑顔を見せる。

自らを「失敗すると夜も眠れず、どん底まで凹むタイプ。しかも、外見上は落ち込んでいないように装う」と分析する磯谷さん。うまくいかないことが続いた新入社員時代の焦りやいら立ちも、3年目になりフロントを任されて感じたプレッシャーも、実家の安心感や家族との何気ない会話が支えてくれた。「家族のおかげで一日を笑顔で終われるから、次の日も頑張れるんです」。山や海といった美しい自然が身近にあることも、気に入っている。「景色をほーっと眺めるのが好き。特に心が落ち着くのは、秋から冬の山や、

### 磯谷さんの オフショット

#### 海や山でリフレッシュ 自然の美しさに心を癒す

「山や海の風景を眺めるのが好き」と話す磯谷さん。大自然を身で感じると心が落ち着き、つらいことや悩んでいることが小さく感じられるそう。

特に気に入っているのは、陸前高田市の大野海岸。震災後、防潮堤建設などの工事で海に近づけない場所が多い中、砂浜が残る海水に触れることができる貴重な海岸だ。「震災後は見るのもつらい時期があったけど、やっぱり私は海が好きなんだと思う」と話す。「夜は満点の星が見られるし、月明りが海に映ってすこすきれい。地元の自慢です」。



ダイニング（食堂）で紙ナプキンや醤油さしなどをセッティングし、食事提供の準備を整える。



先輩のアドバイスや引継ぎ事項は、忘れないよう必ずメモを取る。

子どもの頃、街のお気に入りの場所は5階建てのショッピングモール

## 活気を取り戻すまで 故郷の未来を見届ける覚悟

たそがれどきの海」とロマンチックな一面を明かしてくれた。  
ストレスがたまったり、悩んでいたりするときは、お気に入りの大野海岸（陸前高田市）に出かけるぞう。  
「二人のときも、友だちとワイワイ行くときも。海を見ているうちに、悩み事も流れていく感じがする。この風景は、ここにしかないから離れないですね。」

## 後輩へのアドバイス

学生の間は「働く」ということに不安を感じるかもしれません。私もそうでした。そして実際、入社当初はできないことばかりでした。でも大丈夫、なんとかなります！

就職して、尊敬する先輩や上司、多くのお客様と出会う中で、さまざまな価値観や考え方があることを知り、自分の世界が大きく広がりました。高校時代の私は、大人の助言を素直に受け入れられなかったけれど、働くようになって変わりました。

これから就職活動をするみなさん、社会には発見や出会いがたくさんあります。失敗も成長の糧と考えてチャレンジすれば道は開けます。



「マイヤ」だったぞう。「いろんなお店が入っていて、ゲームセンターやレストランに連れて行ってもらうとワクワクしました。ソフトクリームも食べましたね……」思い出を語る瞳はキラキラと輝く。  
「あんなふうにながやかで活気のある街に戻ってほしい。そうしたら、震災後に地元を離れた人が戻ってくるかもしれない」。就職を機に都会へ出て行った友人たちも、い

つか戻ってくれるといい……磯谷さんはそう願っている。  
「そのためにも、私は地元で元気に働き続けたいんです」。最後は、キリッと力強い表情で話してくれた。



### 企業情報

## 大船渡インターホテル椿

所在地 岩手県大船渡市立根町字萱中 20-9  
TEL: 0192-26-4141  
<http://hotelstsubaki.com/>

代表者 表/佐々木 博子

本 金/500万円

設立/2013年9月

従業員数/18人(2018年1月現在)

事業内容/宿泊業(ビジネス・観光・団体・長期滞在等あらゆるタイプの受入可能)



# 地元の良さを知ろう

Interview

釜石市  
オープンシティ推進室長

石井重成さん

[愛知県西尾市出身]

地元で暮らし、  
働く魅力とは何か。  
震災後に東京から  
岩手県釜石市に移住した  
石井重成さんに  
お話をうかがいました。







釜石市では「オープンシティ」を合言葉に、多様な企業や人材が協働し、震災後のまちづくりを進めている。その取り組みの一つが、「釜石ローカルベンチャーコミュニティ」だ。自分らしい働き方を実践する個人と地域・企業が地域にある資源から新しい価値を創造し、まちの経済や暮らしの豊かさにつなげる挑戦が始まっている。

## 力強く生きる被災地の人たちに 心を打たれ移住を決断

—釜石市に移住することになった経緯を  
教えてください。

2012年に、釜石市で復興支援をしている団体と出会い、その紹介で釜石市役所の職員として採用されたことがきっかけです。

その年の春に、友人が宮城県気仙沼市でイベントを運営すると聞いて、会いに行きました。当時の気仙沼の町は、がれきの撤去も済んでおらず、見渡す限り何もない場所が広がっていました。そこに打ち上げられた巨大な船が一隻ぽつんと残っているだけ。そんな光景を見て衝撃を受けたんです。

でも、地元の人たちは違った。「大変なときだけど、何とか頑張っていこう」と前を向いて進もうとしている姿に心を打たれました。

当時東京のコンサルティング会社で、企業の課題解決をする仕事に携わっていた私は、「被災地には、解決しなくてはならない課題が山ほどある。今、自分がここにいないくてどうするんだー」と考えるようになり、会社を辞めました。そして、これから被災地の復旧・復興にどうかか

わっていくべきかを模索していたとき、釜石市との縁があったんです。

## 市職員として復旧復興に関わり 釜石オープンシティ戦略を策定

—移住してから携わった仕事について聞  
かせてください。

最初の頃は、復興計画の説明会で会場設営や車の交通整理を担当したり、被災者に届けるお便りを封筒に入れる作業をしたり、さまざまな業務に関わりました。

封筒詰め作業は、市の職員がほかの業務の合間にしていたこともあり効率が悪かったことから、外部委託を提案しました。また、住民や支援者のみなさんに復興の進み具合をお知らせするため、レポートを発行しました。こうした業務の改善や情報の発信では、東京で働いていたときの経験が生かされました。みなさんからの「ありがとう」がとてもうれしかったです。励みになりましたね。

2012年の年末からは、釜石市で地域づくりを進める復興支援コーディネーター「釜援隊」の発足に奔走しました。その後も、地元住民や企業、行政、外部の団体や起業家などさまざまな人たちと交流し活動を続けながら、「被災地の復



釜石市で地域づくりを推進する「釜援隊」。金融・マスコミ・商社・国際協力などの各分野で経験を積んだ多彩なメンバーで構成され、自治体や企業、NPO、地域住民らと協働してさまざまな活動を行っている。

## 石井 重成 (いしい・かずのり)

1986年、愛知県西尾市出身。高校を卒業後に大学進学のため上京。大学卒業後、東京の経営コンサルティング会社に就職する。2012年に退職し、11月から釜石市役所職員に採用。復興支援コーディネーター「釜援隊」の立ち上げや「釜石市オープンシティ戦略」の策定に関わる。現在は釜石市オープンシティ推進室長を務める。



釜石ではグローバル金融機関と連携した、地元高校生向けのキャリア教育支援プログラムが提供されている。3年間で約2,000人の生徒が受講。約364人の社会人講師が参加した。

「興」という言葉に頼らない、新たなまちづくりの仕組みについて考えました。それが、現在釜石市で進められている「オープンシティ戦略」です。

**「オープンシティ戦略」について詳しく教えてください。**

被災地では、私のように震災を機に地域の外からたくさんの方の個人や企業が入り、復旧や復興に関わってきました。でも、いつまでも復興という言葉の力だけで、釜石に人を呼び込み続けることは難しい。そこで打ち出されたのが、「個人の働き方を支えるコミュニティづくり」という考え方です。

これからの自分の生き方や働き方を見つめ直したい人たちに、釜石を使ってほしい。その受け皿になるようなコミュニティづくりを推進する「オープンシティ推進室」で私は働いています。

**いろんな人と関わり何ができるそれが、地元に住む魅力**

**「釜石市に住んでみて感じた地元の魅力は何でしょうか。」**

「鉄のまち」として日本初の西洋式高炉が誕生し、日本の産業革命の始まりの

地となるなど、釜石は昔から外部の人材を受け入れながらイノベーションを起こしてきた場所だと思っています。

震災後に私が釜石に住んでからも、復興支援で来た方と地元の方が交流し、多様なプロジェクトが生まれていく光景に出会いました。その経験が自分の生き方を他人任せにしない人たちが活躍できる、ローカルベンチャーコミュニティをつくるきっかけになりました。

自分の夢をカタチに出来る可能性を秘めていて、自分が起こした事業や活動の反応を、直接感じられるちょうど良い大きさのまち。それが釜石で暮らす魅力だと思っています。

**「東京の生活から一番変わったのはどんなことでしょうか。」**

暮らしのストレスを感じなくなったことですね。通勤時には満員電車で押し込まれ、通り歩けば子どもが多い。そんなわずらわしさはこちらに来てからなくなりました。

雪が多いイメージの東北地方でも、三陸沿岸は雪が少なく雪かきで苦労したことはありません。夏は涼しくてエアコンいらず。四季を通して過ごしやすい場所だなと感じています。



2015年に橋野鉄鉱山が世界遺産に登録、2019年には釜石でも試合が行われるラグビーワールドカップが開催される。そのため、外国人をはじめとした国内外の来訪者の受け入れ態勢を整えるべく、民泊やホームステイなどの準備が進められている。

# 「人生を自分で決められる場所」 それがふるさとであったなら とても素敵なことですよ。

東京には、釜石にないものや場所がたくさんありますが、「必要なときに行けば良く、暮らす場所は別にあっても良い」と思っています。三陸道など道路の整備が進み、これからますます交通の便が良くなるわけですから。

**自分の価値判断が求められる時代  
まずは、自分の気持ちに正直に**

**―地元で働く魅力について聞かせてください。**

震災前は被災地でも「地元に残っても何もできない。東京で成功するのが勝ち組」という考えが主流だったと思います。

しかし、これまで「安定的」と表現されてきた仕事や生き方が揺らぎつつある現代社会では、たとえ東京の大企業に就職したとしても、企業が生涯生活を保障してくれるとは限りません。さらに組織の中でマニュアル化された働き方をしていては個人の価値は低下するばかりです。

そこで今後は、自分の価値や役割を実感できる場所で、どう生きていくか。それを自分で判断することがますます重要になってくると感じています。その場所が、生まれ育った「ふるさと」であったなら、とても素敵なことですよ。

釜石には、「将来は地元で働きたい」「地元に貢献したい」と恥ずかしがらずに話してくれる中高生がいます。地域でキャリアを積む可能性が広がりがつつある今だからこそ、大人が多様な選択肢を背中で見せていく必要があると思っています。

**―最後に地元若者へメッセージをお願いします。**

東京に出て自分を試してみたい人も、地元に残って自分の軸みたくいなものを見つめ直してみたい人も、自分の気持ちに正直に行動してほしいと思っています。

そして、もし釜石に住んでみたいという人がいたら、全力で応援します。それが私の役目ですから！



「世の中には“自分は一体何ができるんだろう”と悩んでいる人がたくさんいて、東京にいた時の私もその一人でした」と石井さんは振り返る。釜石に住むようになり、「私を必要としてくれる仲間や場所がたくさんできた。自分が地域や社会に貢献できてきているなと強く感じています」と語ってくれた。

# 都会と地方の違い

東北大学大学院 経済学研究科 教授

吉田 浩



都会と地方の違いについて、一概に優劣をつけられるものではありませんが、さまざまな調査結果の数字から地域ごとの特性を見ることは可能です。

例えば、平成27年に行われた国勢調査（総務省の結果を見ると、生活に欠かせない衣・食・住の「住まい」についてみただけでも、持ち家比率については、東北では全国2位の秋田県78・0%を筆頭に、岩手県が68・7%、福島県が66・1%、宮城県が58・8%と、東北地方は全般的に持ち家比率が高くなっています。ちなみに東京都が47・7%と半数以下であることを考えると、かなり高い比率といえるかもしれません。

また、「働く」ということを考えた場合、雇用者総数に対する正規職員・従業員の比率、いわゆる正規雇用者比率も、山形県の70・8%を筆頭に、福島県が68・7%、岩手県が67・3%、宮城県が66・3%と、東北地方では正規雇用者比率が高くなっています。

このように、一つひとつの項目を見ていくと、ほかの都道府県と比べて、岩手県と福島県は「食料自給率」が高かったり、宮城県は「事業所新設率」が高かったりと、それぞれ特徴があるのです。

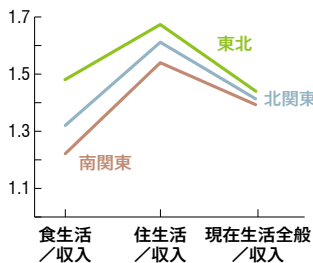
そこで一つの目安となるのが、現在の暮らしに対する満足度です。

平成29年に内閣府が行った「国民生活に関する世論調査」の、現在の生活に対する満足度調査から、「所得収入」、「食生活」、「住生活」、「現在の生活」の満足度を、東北地方、北関東、南関東の地域で比較してみました。その結果、東北地方は「所得収入」に対する満足度は低いものの、「食生活」、「住生活」において満足度が高くなっています。（表1）

東北地方は関東圏よりも食生活に対する満足度が高く、先述の持ち家率も高く、住生活にも満足している人が多いようです。

一方、現在の生活についての満足度は南関東が高くなっていますが、「所得収入」の満足度を基準として「食生活」、「住生活」、「現在の生活」の満足度を比較すると、実は東北地方は現在の生活に対する満足度も高くなるのです。（グラフ1）

現在は新幹線や高速道路が整備され、例えば仙台から東京までは新幹線で約1時間半と日帰り圏内です。首都圏へのアクセスの利便性も高く、豊かな自然に囲まれて、新鮮な食材が関東圏より安く購入でき、関東圏よりは広い家に住めるということを考えれば、東北で働き、東北で暮らすという選択肢も「まんざらではない」のではないのでしょうか。



	a	b	c	d	e	b/a	c/a	e/a
	所得収入	食生活	住生活	レジャー 余暇生活	現在生活	食生活 / 収入	住生活 / 収入	現在生活全般 / 収入
北海道	46.1	24.0	84.1	59.4	70.8	1.302	1.824	1.536
東北	49.7	29.5	82.6	58.0	70.9	1.484	1.662	1.427
北関東	49.7	26.3	81.1	61.3	70.3	1.323	1.632	1.414
南関東	53.5	26.0	82.5	65.9	75.0	1.215	1.542	1.402

（表1）国民生活に関する世論調査（内閣府調査）「満足・まあ満足」と答えた人の比率

調査対象： 全国の日本国籍を有する18歳以上の者10,000人  
有効回収数6,319人（回収率63.2%）  
調査期間： 平成29年6月15日～7月2日

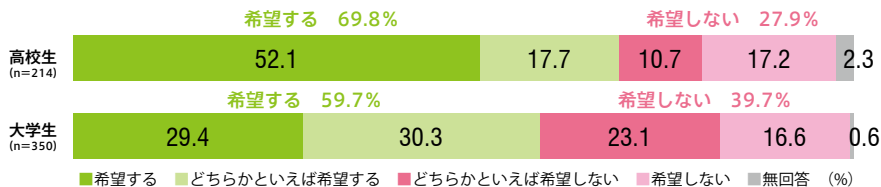
# 被災3県の高校生・大学生の就職に関するアンケート

平成29年12月に岩手・宮城・福島の高中生（水産系を中心）・大学生に対して、就職に関するアンケートを行いました。3県の学生の地元就職に対する考え方を見てみましょう。

※被災3県高校生214名・大学生350名の回答から（2017.12 被災地における高校生・大学生・保護者の就職に関する調査）

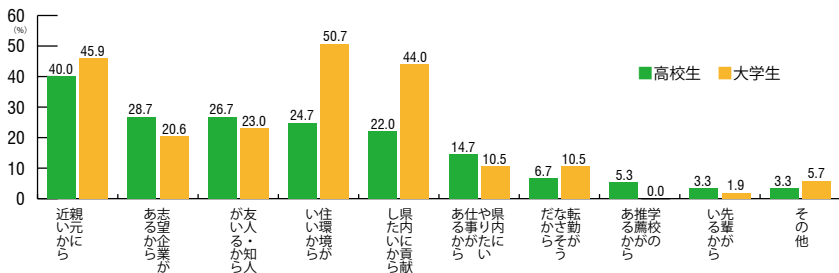
## ■ 県内への就職希望について

県内への就職希望者は、「希望する」「どちらかといえば希望する」と回答した「希望する」学生が、高校生では約7割、大学生では約6割と、いずれも半数以上が県内就職を希望しています。



## ■ 県内就職を希望する理由

県内への就職希望理由は、高校生が「親元に近いから」が最も多く、大学生では「住環境がいいから」「親元に近いから」「県内に貢献したいから」などとなっています。



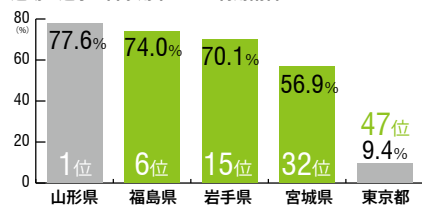
## 数字で見る3県の特徴

首都圏と東北各地の違いは、暮らしにかかわるさまざまな数字からも見ることができます。国が行ったさまざまな調査結果から都会と地方の違いを見てみましょう。

### 通勤手段

通勤方法は、東京都では鉄道・電車の利用が最も多く、東北地方は山形県の1位を筆頭に、自家用車で通勤・通学している人が多いのが特徴です。

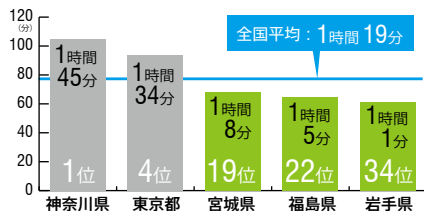
通勤・通学で自家用車だけの利用割合



※平成22年国勢調査より

### 通勤時間

1位の神奈川県に続いてるのが埼玉県、千葉県と、1日あたりの通勤時間が長いのが首都圏の特徴です。

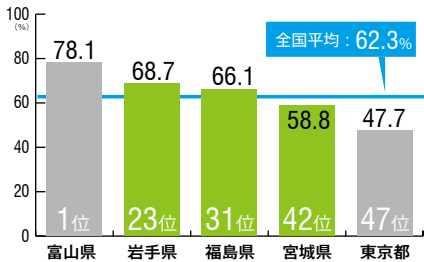


※1日あたりの通勤・通学時間(10歳以上の「通勤・通学」をしている人、平日の平均)平成28年度社会生活基本調査結果(総務省統計局)

## 住まいについて

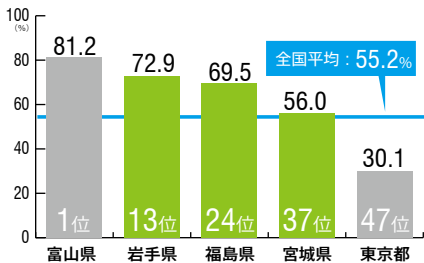
東北地方は、持ち家の比率が高く、岩手県、福島県では全国平均を上回っています。そのうち、一戸建ての住まいに住んでいる人が多いのも特徴です。

### 持ち家比率



※平成27年国勢調査

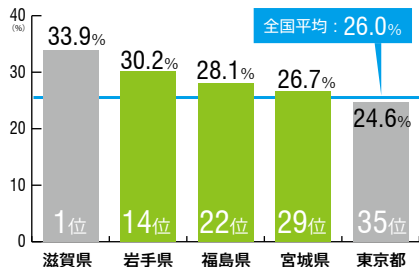
### 持ち家のうち一戸建ての割合



※平成27年国勢調査

## ボランティア

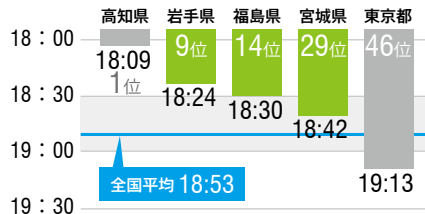
東日本大震災を経験しているだけに、ボランティア活動に熱心なのも東北地方の特徴で、岩手県・宮城県・福島県ともに全国平均を上回っています。



※過去1年間にボランティア活動をした人の割合(10歳以上)  
平成28年度社会生活基本調査結果(総務省統計局)

## 帰宅時間

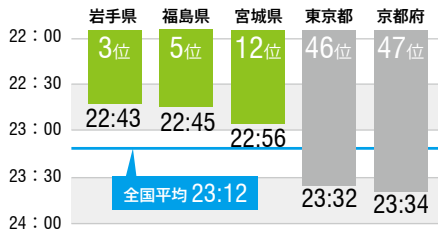
東京都では、通勤時間や就業後に立ち寄るスポットが多いせいか、帰宅時間は19:13と、遅くなっています。



※有業者の平日における平均帰宅時刻  
平成28年度社会生活基本調査結果(総務省統計局)

## 就寝時間

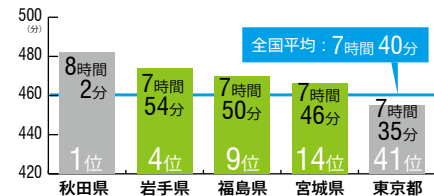
東京都の平均就寝時刻は全国平均よりも遅く、岩手県、福島県では、全国平均よりも早寝の人が多ようです。



※10歳以上の男女の平日における平均就寝時刻  
平成28年度社会生活基本調査結果(総務省統計局)

## 睡眠時間

一日の睡眠時間の長さは、秋田県の1位を筆頭に、岩手県・宮城県・福島県ともに全国平均を上回っています。大都市圏に比べてゆっくり寝ているようです。



※1日あたりの睡眠時間(10歳以上、土日を含む週全体の平均)  
平成28年度社会生活基本調査結果(総務省統計局)

## 地元企業に目を向けよう

企業のさまざまな情報は、大手就職サイトなどで見ることができる。一方、企業を選ぶ学生も、そうした就職サイトに名を連ねる大手企業や首都圏企業に注目しがち。

しかし、そのようなサイトに掲載されていなくとも、仕事の魅力はもちろん、職場環境の改善や地域密着、社会貢献など、さまざまな取り組みを行っている多くの魅力的な企業が、地元にもたくさんある。一方でそうした地元の企業は、あまり学生に知られることなく、人材の確保に悩んでいる。

豊かな自然に囲まれて、これまでの住み慣れた環境で、家族と共に暮らしながら地元の魅力的な企業で働くことも選択肢の一つ。

まずは、地元企業に目を向けてみよう。

問い合わせ先

---

**復興庁企業連携推進室**

TEL 03-6328-0267

mail [kigyo-rs@cas.go.jp](mailto:kigyo-rs@cas.go.jp)

---



ジモト  
で 岩手県版  
はたらく